

Kd療法 (Carfilzomib+Dexamethasone)										
		Day								
薬剤名	用法用量	1	2	8	9	15	16	22	23	28
カイプロリス (Carfilzomib)	20mg/m <sup>2</sup> or 56mg/m <sup>2</sup> ※1 点滴静注	↓	↓	↓	↓	↓	↓			
デキサート (Dexamethasone)	20mg 点滴静注	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	

※1 Day1,2は20mg/m<sup>2</sup> Day8,9,15,16は56mg/m<sup>2</sup>、それ以降のコースは56mg/m<sup>2</sup>

### 【基本事項】

再発または難治性の多発性骨髄腫

### 【レジメンポイント】

①体表面積が2.2m<sup>2</sup>を超える場合は2.2m<sup>2</sup>として計算する

②脱毛症またはGrade3の悪心・嘔吐、下痢および疲労を除いたGrade3以上の副作用が発現した場合は回復まで休薬する。投与再開時には投与量の減量などを考慮する。クレアチンクリアランスが15mL/min以上に回復するまで休薬する。投与再開時には減量などを考慮し、透析を要する場合には透析後に投与する。

副作用発現時の投与量	投与再開時の投与量 (目安)
56mg/m <sup>2</sup>	45mg/m <sup>2</sup>
45mg/m <sup>2</sup>	36mg/m <sup>2</sup>
36mg/m <sup>2</sup>	27mg/m <sup>2</sup>
27mg/m <sup>2</sup>	投与中止

③デキサメタゾンとの因果関係が否定できない有害事象に対する用量調節基準

用量	1段階目	2段階目	3段階目
40mg	20mg	12mg	中止

	症状	推奨される処置
消化器系	消化不良、胃潰瘍、十二指腸潰瘍または胃炎 Grade1~2の消化器毒性	H2受容体拮抗薬、スクラルファートまたはPPIを投与しても症状が持続する場合、1段階減量
	Grade3以上の消化器毒性	症状が十分コントロールされるまで中断後、1段階下の用量で再開、H2受容体拮抗薬、スクラルファートまたはPPIを投与。これらの処置にもかかわらず症状が持続する場合は永続的中止
	急性膵炎	永続的中止
心血管系	Grade3以上の浮腫	必要に応じて利尿薬を投与し、1段階減量。これらの処置にもかかわらず浮腫が持続する場合、さらに1段階減量、2回目の減量後も症状が持続する場合、永続的中止
神経系	Grade2以上錯乱 または気分変化	症状が消失するまで中断後、1段階下の用量で再開。これらの処置にもかかわらず症状が持続する場合、さらに1段階減量
筋骨格系	Grade2以上の筋力低下	1段階減量。筋力低下が持続する場合、さらに1段階減量。それでも症状が持続する場合、永続的中止
代謝系	Grade3以上の高血糖	必要に応じてインスリンまたは経口の血糖降下薬を投与してもコントロールできない場合、十分な血糖コントロールが得られるまで1段階中断後、有害事象がGrade2以下または投与直前まで回復した場合1段階下の用量で再開。有害事象が再発した場合は永続的中止
Grade3以上のその他の非血液毒性		永続的中止

### 【主な副作用】

Infusion reaction、帯状疱疹、高尿酸血症、静脈血栓症・塞栓症、心障害、高血圧